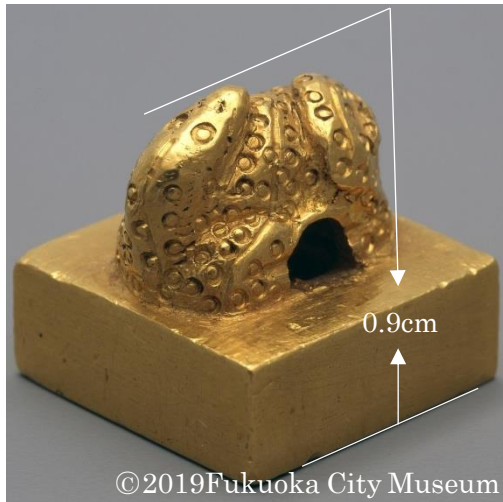


きんいん いんもん かのわのなのこくおう
金印 印文 「漢委奴国王」

所在地/福岡市
指定/国宝



金印は、今から約2,000年前の弥生時代^{やよい}に金でつくられたハンコです。江戸時代^{えどじだい}、志賀島^{しかのしま}で農作業を行なっているときに偶然発見^{ぐうぜん}されました。金印は一辺2.3cm、高さ0.9cmの大きさで、その上に蛇^{へび}の形をしたハンコを持つ部分が付いています。発見されてからしばらくは、偽物^{にせもの}か本物か二つの意見^{いけん}がありましたが、金の純度^{じゆんど}（※）や、ハンコをつまむ部分の形、大きさなどを中国から発見されたハンコとくらべた結果、今では本物に間違い^{まちが}ないとされています。

後漢^{ごかん}（中国）の歴史が書かれた書物^{しょもつ}には、約1970年前に光武帝^{こうぶてい}という皇帝^{こうてい}（国王）が倭^わ（日本）の奴国^{なこく}（今の春日市から福岡市にかけての地域）をおさめていた有力者^{りきりやくしゃ}に金印を送ったことが書かれています。そこにでてくる金印がこの「漢委奴国王^{かのわのなのこくおう}」の金印と考えられています。このことから奴国の権力者^{けんりやくしゃ}が、当時の大国であった中国から、光武帝のもとで地域をおさめる王^{みと}として認められたことを意味^{いみ}します。そして、弥生

時代に海外と国際的な関係^{きず}を築いていた場所が福岡県内にあったことがわかります。

金印は発見後、江戸時代の福岡をおさめていた黒田藩^{くろだはん}が保管^{ほかん}し、そのあとは黒田家に代々伝わってきました。今は福岡市博物館で展示されています。

※純度：物質中に、その主成分である純物質が占める割合

【もっとくわしく調べたい】

- 福岡市博物館 福岡市早良区百道浜3丁目1-1 Tel 092-845-5011
- 金印公園 福岡市東区志賀島字古戸1865

【金印を見てみたい】

- 福岡市博物館 福岡市営地下鉄西新駅から徒歩で15分